

氏名	三 谷 政 彦
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3017号
学位授与の日付	平成8年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	胸部腫瘍病変におけるMR angiography の評価 —上大静脈とその分枝ならびに腫瘍との関連性の描出能に ついて—
論文審査委員	教授 清水 信義 教授 佐野 俊二 教授 村上 宅郎

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

胸部腫瘍病変における血管像、腫瘍と上大静脈およびその分枝との関係の評価を目的に3通りの方法でMRAを撮像し、3法のMRAの比較、その元画像との比較、MRI spin echo法(SE)、CT、X線venographyなど他画像との比較を行い、その有用性について検討した。対象は健常ボランティア6例、上大静脈系との関係が問題となった胸部腫瘍病変患者46例である。MRAは3-Dimensional MRA(3D-MRA)、2-Dimensional MRA(2D-MRA)、MR venographyの3方法により撮像した。3方法のMRAはそれぞれ利点、欠点があり、3法とも施行することで、より正確な診断が可能となるものと考えられたが、3D-MRAは内頸静脈など頸部の血管との関係が問題となった症例についてのみ撮像すれば十分であり、2D-MRA、MR venographyを中心に検査を進めていくのが適当と考えられた。MRAにおける評価は元画像を基本とするのが適当であり、投影像は全体像の把握に有用であった。他画像との比較においては、血管像の描出ではSE、CT に対し、また腫瘍と血管との関係の把握ではSE、CT、X線venographyに対し有意に優れているとの結果であった。MRAは空間分解能に問題があり、MRAのみで詳細な検討は困難であるが、主要静脈の描出は良好であり、その有用性は高いと考えられた。

### 論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は胸部腫瘍病変における血管像、腫瘍と上大静脈及びその分枝との関係の評価を目的に3通りの方法でMRAを撮像し、3法のMRAの比較、その元画像との比較、MRI spin echo法(SE)、CT、X線venographyなど他画像との比較を行い、その有用性について検討したものである。MRAは空間分解能に問題があり、MRAのみで詳細な検討は困難であるが、主要静脈の描出は良好であり、その有用性は高いとの知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。